

## ドレスタディ バックナンバーリスト

※このリストは、2019年10月1日現在のものです。  
現在の在庫状況につきましては、「[出版物の在庫状況](#)」をご覧ください。

2019/10/1 現在

34 (’98秋)	<p>「弔辞」千宗室 「前理事長、塚本幸一への追悼」ジャック・シラク、三宅一生 「ダンスとファッションとパフォーマンスについて…服飾研究家への提言」三浦雅士 「未来の身体、ファッションとパフォーマンスの狭間に」マリナ・アブラモビッチ 「対談 ダンスオペラはアートの多面性をうつす鏡」大須賀勇・深井晃子 「ペーパー・ドレス…1960年代における素材開発とファッションの連動についての一考察」新居理絵 世界の服飾美術館33 「マンチェスター市立美術館衣装部門」周防珠実</p>
37 (’00春)	<p>「ハンズ・オン」五十嵐耕一 「衣服と絵画」篠原資明 「フェティシズムとアイデンティティ—皮膚の政治的生活について」港千尋 「ボディ・プレー—ファッションの境界における刺青とピアス」カルメン・マッケンドリック 「京都—東京、生きるプロジェクト—マルタン・マルジェラ：エキシビジョン報告」谷川真美 「トピックス、新収集品紹介」 世界の服飾美術館36 「ユトレヒト中央美術館」周防珠実</p>
39 (’01春)	<p>「文明の装置としての服飾」工藤庸子 「プルーストとニジンスキー」吉川一義 「対談 プルーストとドゥミ=モンデーヌの華麗な世界」吉田城・深井晃子 「モード、あるいは時を印す装置—オデットのアルモワール—」深井晃子 新収集品紹介、トピックス、告知</p>
42 (’02秋)	<p>「アウラの消滅」以後—「引用」を越えるアートのたくらみ—塚原史 イタリヤ「文化の回転とディズニーランド—オリジナルのあるコピー—」 野登路雅子・深井晃子 「ファッション・デザインと剽窃問題—2002年NYの例に関して—」周防珠実 「ファッションにおけるオリジナリティを問う—模倣や引用の観点から—」石関亮 コピー問題を理解するためのキーワード 新収集品紹介、お知らせ、トピックス、告知</p>
43 (’03春)	<p>「浮世絵の赤」狩野博幸 「権威と粋と—江戸時代の毛織物輸入—」石田千尋 「伝統のあか 明治のアカ」吉岡幸雄 「ヨーロッパの赤について」石関亮 新収集品紹介、お知らせ、トピックス、告知</p>
44 (’03秋)	<p>「色彩の情報化、それともデジタル化」藤幡正樹 「東京の色」五十嵐太郎 「時代のアティチュードとしてのマネキン」オリヴィエ・サイヤール 講演「BODYWRAPPInc.—世界の使い捨てラッピングマテリアルで作られた服—」 アネッテ・メイヤー 「迷彩、その意味の変容について」山本奈緒子 新収集品紹介、お知らせ、トピックス</p>
46 (’04秋)	<p>「未必のアヴァンチュール—『天守物語』あるいは泉鏡花と出来事としての色彩—」伊東乾 「色づくし—&lt;いろ&gt;にまつわるアンソロジー その1—」 講演「色の流行と天然染料」ドミニク・カルドン 「バクストの時代—新しい曙光の色へ—」深井晃子 「色づくし—&lt;いろ&gt;にまつわるアンソロジー その2—」 お知らせ、新収集品紹介、トピックス</p>

## ドレスタディ バックナンバーリスト

47 (05春)	<p>「Innocent Publicity Gathers no Moss?          -1990年以降のファッション・イメージのラフ・スケッチ-」瀧本雅志          「ファッション・チェックと有名性支配の時代」石田佐恵子          「ハイ・ファッションとポップ・ファッション-『ル・モンド』と『ガーディアン』紙におけるファッションの象徴的生産-」アニエス・ロカモラ          「2次元の世界-キャラクター流行にみる認識の平面化について-」石関亮          「男性服の為の刺繍サンプルについての一考察          -18世紀の後半のKCI収蔵品より-」周防珠実          新収集品紹介</p>
48 (05秋)	<p>「チナ、あるいはマジナルなものの変遷」今福龍太          「1970年代『ネットワーク』-『柔らかなさ』の分岐点」酒井隆史          「ダブ/ミックス/ブレイクビーツ-1970年代の録音テクノロジーの布置」増田聡          「1970年代のロマンティック・ファッション再考-KCI収蔵品を中心として」新居理絵          講演「新たな表現メディア、ファッション展-服、生き続ける服、捨てられた身体」          オリヴィエ・サイヤール          新収集品紹介、お知らせ</p>
49 (06春)	<p>「ジェンダー研究の変遷と男性学の可能性」上野千鶴子          「ニュー・マン、ニュー・ラット、トモセクシュアル」アントニョ・ホルトン          「お洒落な俠気でいこう」熊田一雄          「ファッションブル・マン-近・現代における男性のファッション観の変遷」石関亮          展覧会評「イスラエルでの「ポスト・ジェンダー」展雑感」笠原美智子          展覧会評「黒から始まるファッションの輝き」ハベルタ・スミス          新収集品紹介、お知らせ</p>
50 (06秋)	<p>「手仕事の歴史的意味」今村仁司          「物質と身体-現代美術における「手」の問題」暮沢剛巳          インタビュー「ロボットの手、ロボットを創る手」高橋智隆          アンケート「ファッションにおける手仕事の意味」          「COLORS ファッションと色彩」展における子供のワークショップ 事例報告 筒井直子          新収集品紹介、お知らせ</p>
51 (07春)	<p>「隠居が編集した江戸の贅沢「いき」と「通」の道楽哲学」松岡正剛          リレー・トーク「いま、ラグジュアリーとは」高橋智隆、ひびのこづえ、船曳建夫、鹿島茂          解題「フリップ・パペー「贅沢、豪華と快適のあいだの富、18-19世紀」徳井淑子          「『ドレスタディ』創刊から25年、そして次なるステップへ」          「1880-1910年代のイギリスにおける日本製室内着/          リバティ商会の通信販売カタログを手がかりとして」周防珠実          新収集品紹介          世界のファッション美術館1</p>
52 (07秋)	<p>「理想の身体への情熱」海野弘          「ラグジュアリーな女神、ラクシュミー」田中雅一          インタビュー「身体のラグジュアリー-偏在する他者を感じて-」大澤真幸          「1960年代の日本製プレタポルテ-日本におけるパリ・ファッション受容に関する一考察-」          新居理絵          文献解題「ポール・イリーブ『Choix (選択)』」          新収集品紹介          世界のファッション美術館</p>

## ドレスタディ バックナンバーリスト

5 3 ( '08 春)	<p>印象派とレジャー—19世紀後半のパリ均衡とノルマンディー海岸— 三浦篤                  インタビュー 失われた余暇を求めて—近現代イギリスのレジャーと感性の歴史— 小林章夫                  刺激的な余暇—近代の多様化するレジャーとファッション— 石関亮                  西洋レジャーの技術・文化史年表：1850-1914—                  稀観書紹介 『Toi』—高級毛皮店「マックス」のカタログ— 筒井直子                  お知らせ、新収集品紹介                  世界のファッション美術館</p>
5 4 ( '08 秋)	<p>「空疎な天才」イヴ・サンローランの偉業—21世紀のパラダイムを予見する快樂と悲劇—                  稲垣直樹                  パンタロン—イヴ・サンローランの反逆のクラシック— ローレンス・ベイナム                  講演 ラグジュアリー—顕示的浪費から感覚的快樂まで— ヴァレリー・スティール                  三宅一生作品受贈による KCI 的意味と意義 深井晃子                  三宅一生のクリエイションと方法論—国内外の研究者・キュレーター諸氏に聞く—                  文献、新収集品紹介                  世界のファッション美術館</p>
5 5 ( '09 春)	<p>講演「西洋文化におけるラグジュアリー」樺山紘一                  17世紀ドイツにおける市民のラグジュアリー—ダルムシュタット・ヘッセン州立博物館の衣裳コレクシオン— ヨハネス・ピーチュ                  講演「贅沢は敵か？」都築響一                  豊潤な言葉とイメージ—ラグジュアリー—アンソロジー—                  インタビュー Mzison Martin Margiela—「アーティザナルなもの」を追い続けた                  ラグジュアリーな 20 年間— メゾン・マルタンマルジェラ                  文献、新収集品紹介                  世界のファッション美術館</p>
5 6 ( '09 秋)	<p>時代の徴候—“アール・デコ”とその周辺— 天野知香                  タヤートとヴィオネの共同制作—「カラー・スケール」のアイデアと                  『ガゼット・デュ・ボン・トン』の図版、そして衣服、生地、装飾等のデザイン                  アウロラ・フィオレンティーニ                  「現代の様式」—1925年アール・デコ博覧会ファッション展示にみるモダニティの諸相                  朝倉三枝                  インタビュー &lt;弱さ&gt;の感覚を形にして—日本のモダン・デザインとデザイン教育 内田繁                  ヘルムート・ラングとその創造的世界 新居理絵                  文献、新収集品紹介                  世界のファッション美術館</p>
5 7 ( '10 春)	<p>西洋から見た 1980年代におけるジャパニーズ・ファッション ドリンヌ・コンドー                  東京—パリ—東京、1980年、そして現在？ フランス・グラン                  西洋が東洋をまとったとき：川久保玲と山本耀司、そしてファッションにおける                  ジャパニーズ・アヴァンギャルドの台頭 メリッサ・マッラ=アルバレス                  対談インタビュー アヴァンギャルドを着こなす：                  1980年代以降の浸透するジャパニーズ・ファッション 原由美子、深井晃子                  中心化する周縁：ファッション展におけるジャパニーズ・ファッション（1） 石関亮                  文献、新収集品紹介                  世界のファッション美術館</p>
5 8 ( '10 秋)	<p>美と好み—日本文化の世界性と今日性— 熊倉功夫                  柳宗悦の民藝運動と日本の染織日本民藝館職員 石井りえ                  インタビュー：ジャパニーズ・テキスタイル：クリエイションを支える伝統と革新 皆川魔鬼子                  matohu— 歴史にひそむ新鮮な美しさを求めて 堀畑裕之                  中心化する周縁：ファッション展におけるジャパニーズ・ファッション（2） 石関亮                  お知らせ、文献、新収集品紹介                  世界のファッション美術館</p>

## ドレスタディ バックナンバーリスト

59 (’11 春)	<p>小花模様の茜染更紗、またはヨーロッパ捺染の起源について 深沢克己                  マティスと装飾のメタフィジクス(形而上学) ジャック・フラム                  対談インタビュー テキスタイルの魅力 宮廻正明、深井晃子                  カタルーニャのテキスタイルによるジャポニスム リカルド・ブル                  文献紹介『当世早流雛形(姿見御ひいな形)』 丸山伸彦                  新収集品紹介                  世界のファッション美術館</p>
60 (’11 秋)	<p>衣服の文化：ファッション図像コレクション——リップーハイデ服飾ライブラリー                  アーデルハイト・ラッシュェ                  ドローイング・ファッション コリン・マクドウェル                  アンケート：イメージ、ファッション、記憶                  ポワレの挑戦：ドレス・パターンとテキスタイルを手がかりとして 深井晃子                  新収集品紹介                  世界のファッション美術館</p>
61 (’12 春)	<p>インタビュー 人と服、そして環境～ヨーガンレールの服作り ヨーガンレール                  服と向き合う～POTTOとmameの場合 山本哲也、黒河内真衣子                  闘う身体：人を着ているとは言えないだろうか？ 小野原教子                  ATOPOS CVCが選ぶファッションのラディカルなキャラクターたち                  ヴァシリス・ジディアナキス                  ポワレの挑戦：ドレス・パターンとテキスタイルを手がかりとして 深井晃子                  新収集品紹介                  世界のファッション美術館</p>
62 (’12 秋)	<p>はじめに                  展覧会「Future Beauty 日本ファッションの未来性」出展ブランド                  20471120                  ANREALAGE                  ASEEDONCLOUD                  インタビュー                  ASKI KATASKI                  beauty: beast                  Eatable of Many Orders                  hatra インタビュー                  keisuke kanda                  mame                  mina perhonen                  ohta                  POTTO                  SHINICHIRO ARAKAWA                  S/STERE                  writtenufterwards                  謝辞</p>
63 (’13 春)	<p>国民服 境界なき空間のユニバーサルな身体 井上雅人                  オランダの改良服運動—デン・ハーグ市立美術館コレクションより— マデリーフ・ホーヘ                  イタリアのファッションにおけるジャポニスムの始まり ラウラ・ディミトリオ                  レクチャー：建築家・藤本壮介、『Future Beauty』展を語る 藤本壮介                  ポワレの挑戦：ドレス・パターンとテキスタイルを手がかりとして—その3 深井晃子                  研究ノート：明治初期の輸出用ドレッシング・ガウンの比較 周防珠実                  新収集品紹介                  世界のファッション美術館</p>

## ドレスタディ バックナンバーリスト

<p style="text-align: center;">6 4</p> <p style="text-align: center;">('13 秋)</p>	<p>既製服普及以前の衣料品流通の光景 北山晴一          アフリカの古着市場とローカルな流行におけるその影響          カレン・トランセバーク・ハンセン          インタビュー 21世紀ファッションの&lt;メイカー&gt;とは―「ファッションは更新できるのか?会議」の議論と実践 金森香、永井幸輔          警察令にみる異性装の表徴 新實五穂          ポワレの挑戦：ドレス・パターンとテキスタイルを手がかりとして―その4 深井晃子          新収集品紹介          世界のファッション美術館</p>
<p style="text-align: center;">6 5</p> <p style="text-align: center;">('14 春)</p>	<p>■「80・90年代における美との対面」展を終えて          シモーナ・セグレ・ライナツハ（ボローニャ大学教授）          ■ロンドンにおけるファッションのジャポニスム 1971-72年：1人のデザイナー、3人の写真家、そして3冊の雑誌          ヘリーン・マリー・サイアン（服飾史研究者）          ■ロメオ・ジリの創造性：KCIの収蔵意図          新居理絵（京都服飾文化研究財団キュレーター）          ■「ポワレの挑戦：ドレス・パターンとテキスタイルを手がかりとして―その5―」          深井晃子（京都服飾文化研究財団チーフ・キュレーター）          ■お知らせ、新収集品紹介          ■世界のファッション美術館</p>
<p style="text-align: center;">6 6</p> <p style="text-align: center;">('14 秋)</p>	<p>大大阪のモダニズム 橋爪紳也          投稿論考          文学作品にみる服装（国民服）の機能：太宰治「服装に就いて」を読む 松本和也          講演          色を着る、色を脱ぐ：アンリアレイジと京都の技術 森永邦彦          インタビュー          関係をつなぐ：書物が結ぶ人、地域、アート、そしてファッション 北川フラム          書かれた衣服：魅力ある研究誌のつくり方 木下直之、塚原史、成実弘至、堀畑裕之          新収集品紹介          世界のファッション美術館</p>